

備前市施策評価シート

施策名 (小項目)	し尿処理	コード	作成者	役職	環境課長
		01-01-15		氏名	森本和成
			電話	0869-64-1821・1822	
			このシート作成に要した時間		1.5 時間

この施策の アピール ポイント	この施策は、止めることができないライフラインに匹敵する施策である。全市民が日常的に必要な施策で、今後も継続して支障を起こさないように努める。
-----------------------	--

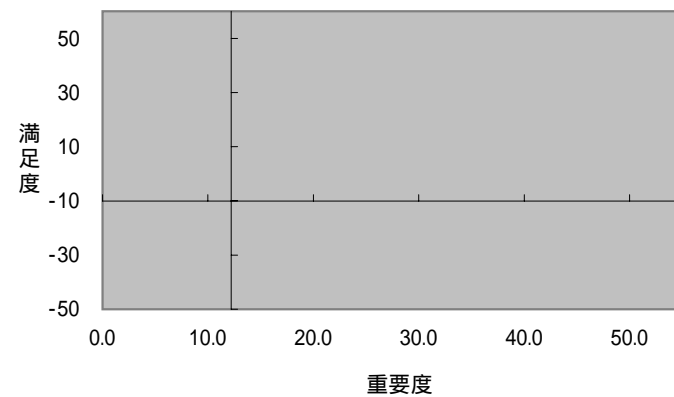
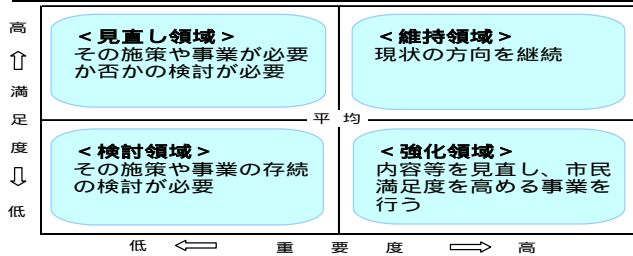
この施策の 平成23年度の 施政方針	し尿処理についてであります。衛生センターの老朽化が進んでおり、特に傷みが著しい汚泥等の焼却施設の運転を停止いたしました。このため、平成23年度は、施設更新に向け基本計画の策定を行うとともに、必要最小限の補修を行いながら、適正な維持管理に努めてまいります。
--------------------------	---

<備前市総合計画の内容から記載する>

① 政策の体系	基本目標 (大項目)	安全で快適に暮らせるまちづくり
	基本施策 (中項目)	生活しやすいまちづくり
② 対象と目的 (誰のために、何のために)	し尿・浄化槽汚泥処理が必要な市民・市内事業者のために、許可業者が収集したし尿を効率的に処理することにより、生活環境の保全につなげる。	
③ 現況と課題 (総合計画から現在の問題点を抽出)	下水道整備の普及に伴い、全体的な処理量が減少しているとともに、浄化槽汚泥の投入比率の増加等により処理対象物が希薄化しており、効率的な処理方法を検討する必要がある。また、施設の老朽化への対応策も必要である。	
④ 施策展開 (総合計画の施策部分から、実施する施策を抽出)	<ul style="list-style-type: none"> し尿処理施設の検討 	

⑤ 市民意識調査による施策の重要度・満足度

調査年度	H21	H22	H23	H24
重要度 (%)	▲	▲	▲	▲
満足度 (%)	▲	▲	▲	▲



調査結果に対するコメント、市民の反応等	下水道整備の普及に伴い処理量は減少しているが、浄化槽の汚泥処理は横ばいの状況となっている。市民の意見・要望は最近聞かれなくなっている。
調査対象でない施策は、市民の反応等	

⑥ 施策成果指標 (基本目標・基本施策・施策意図から設定)

成果指標	施策に対する成果指標名	単位	過年度実績			評価年度	成果指標の計算式の説明 ベンチマークの説明	目標値	
			H21	H22	H23			H24	H28
し尿投入量	目標	トン	11,200	11,000	11,000	施設の必要性	H24	11,000	
	実績	トン	11,585	11,413	11,347		H28	8,500	
	達成率	%	103.4	103.8	103.2		-	-	
	ベンチマーク						-	-	
参考指標① 施設水道使用量	目標	m³	9,000	9,000	9,000	処理効率・経費節減目安	H24	9,000	
	実績	m³	8,576	9,788	9,247		H28	9,000	
	達成率	%	104.9	91.9	97.3		-	-	
	ベンチマーク						-	-	
参考指標②	目標						H24		
	実績						H28		
	達成率	%					-	-	
	ベンチマーク						-	-	
参考指標③	目標						H24		
	実績						H28		
	達成率	%					-	-	
	ベンチマーク						-	-	

⑦ 目標達成に必要な新規事業 (裏面 施策構成事務事業以外の事業) 及び連携させる他部署の事業

実施主体	新規に必要な事業・連携が必要な事業	説明・期待される効果
下水道課	公共下水道・合併処理浄化槽の早期整備	下水道の整備の普及状況により影響される
下水道課	下水道放流の実現	希釈度、水量などの許容検討

⑧ 施策の評価

項目	評価	5:非常に高い 4:高い 3:どちらともいえない 2:低い 1:非常に低い	
		判断	理由 (なぜ、そのランクと評価したのか)
1 <成果指標の妥当性> 施策の目的・成果を表現しているか?	4		法令に基づき市が実施している。し尿及び浄化槽汚泥の収集業務は許可業者が行っており、搬入量については、生し尿と浄化槽汚泥であるが、支障の無いように処理できている。
2 <事業構成の妥当性> 手段は最適か?	3		生活環境保全のための事業であり、事業構成は妥当である。
3 <施策の有効性> 指標分析、評価年度・中長期の達成見込みは?	4		し尿投入量はほぼ目標値に達している。水道使用量については、H17年度では、21,254m³であったが、経費削減に取り組んだ結果が現れ、大幅に減少している。必要な施策である。
進行年度 (H24年度) の取組内容 (課題解決状況)			衛生センターは老朽化しており、更新時期が来ている。市民生活に支障をきたさないように、また、更新後のランニングコストや、年々減少と思われるし尿の処理に支障をきたさないように平成23年度で作成した「汚泥再生処理センター基本計画」に基づき、施設更新を推進する。
翌年度 (H25年度) の取組目標			施設が老朽化している中で、早期更新を視野に入れて、関係部署と協議調整する。更新施設は、吉永地域のし尿等についても、投入することとしていることから、和気赤磐し尿処理施設一部事務組合からの脱退に向けた調整が必要である。
二次評価者コメント			老朽化が進み、施設更新が望まれる。早期の更新に向け、一部事務組合や関係部署と早めに調整してもらいたい。
役職 氏名	市民生活部長 野上 茂之		基本施策への貢献度 4 やや高い

